



RIKKYO UNIVERSITY
VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE
2025.8.1



いつから夏だったのかが分からないぐらいに、ずっと前から暑い日が続いていました。それでも最近では、浴衣を着ている方の姿を目にしたり、花火の音や屋台から漂ってくる香りに包まれたりすることを通して、自分が本格的な夏の中にいるのだと実感しています。

7月26日(土)、キャンパスのある新座市でも夏祭りが開催されていました。私は石神第一児童遊園で開催された「石神夏祭り」を訪れたのですが、そこでは新座キャンパスの学生を中心としたサークル「[子どもクラブ Bambino](#)」の学生4名がボランティアとして参加していて、子ども神輿の進行サポート、屋台の列整理などを担当し、地元住民の方々による実行委員会の方々と協働しながら、地元子どもたちとじゃれ合いながら楽しそうに活動していました。

夏休み中の子どもたちが友人との久しぶりの再開に興奮し、日差しかアルコールの影響で地域の大人たちは顔を赤らめ、太鼓の音が響く櫓を中心に盆踊りの円が広がっている、そんな懐かしい風景もだんだんと少なくなっています。太鼓を叩いていた方は、「呼んでもらうことはあっても、櫓が組まれていないことも多い。大きな櫓でなくても、それが組まれているだけでも嬉しい」と話していました。

大人になってから地域のお祭りにいくと、いろいろなものが昔より小さく見えてしまいます。それは自分の体が大きくなったからでもあるでしょうが、それだけではなく、たしかに小さくなっている現状もあります。自分のすぐ傍に、当たり前のようにあった文化も、一度途絶えてしまえばそれまで。その復活は容易ではありません。今もコロナ禍の影響が残り、再開・復活の途上にある地域活動も多いです。

みなさんには、どのような夏祭りの思い出がありますか？ 地元を離れて暮らしている方は、今生活している地域でどのように夏を感じていますか？

見る・参加するだけでなく、加わることを通して、お祭りを内側から味わってみるのも、夏の楽しみ方の一つです。そして、小さいかもしれないけれど、あなたの確かなかわりが、お祭りを未来に残す一助になるかもしれません。みなさんの夏が、充実したものになりますように。

齋藤 元気

(ボランティアコーディネーター)

各コンテンツの詳細や写真は、ボランティアセンター公式【note】からご覧ください！

https://note.com/rikkyo_volunteer/n/nc60b9da74b86

**** 今月の CONTENTS ****

■ ボランティアセンターからのお知らせ

- 【1】2025 年度「ポール・ラッシュ博士記念奨学金」の募集要項を公開しました！9月には、募集説明会も開催！
- 【2】ボランティアセンター 夏季休業期間中(8/1～9/19)の開室日時について
- 【3】熱中症に十分な注意を！
- 【4】ボランティア保険に加入していますか？
- 【5】「東京 2025 デフリンピック」の開催まで、あと少し！
- 【6】貸し出し開始図書を紹介！

■ ボラセン活動レポート

- 【1】『農業体験 in 山形県高畠町』事前学習① いよいよ活動スタートです！

■ RSL センターからのお知らせ

- 【1】立教サービスラーニング・秋学期実践系科目 科目別説明会の開催について

■ 陸前高田サテライト事務局からのお知らせ

- 【1】「立教大学陸前高田サテライト」開所式・開所記念シンポジウムを催しました
- 【2】陸前高田サテライト援助金制度を利用して、岩手県陸前高田市に行ってみよう！

■□■ 巻末コラム ■□■

4月からボランティアセンターで勤務している職員の岡田です。

皆さんは「青年海外協力隊」についてご存じでしょうか。これは、開発途上国からの要請に基づき、それに応えられる技術・知識・経験を持つ人材を選考・訓練し、現地に派遣する JICA(国際協力機構)の事業です。現在は「JICA 海外協力隊」として統合され、年齢による区分も廃止されていますが、かつては 40～69 歳を対象とした「シニア海外ボランティア」という制度がありました。これは「青年海外協力隊」のシニア版ともいえるものでした。

私は以前、この青年海外協力隊およびシニア海外ボランティアの選考・訓練・派遣業務に携わっており、応募者の履歴書を拝見したり、面接に同席したりする機会がありました。とりわけシニア海外ボランティアの応募者の皆さんが持つ高度な技術と熱意には、毎回圧倒される思いでした。履歴書には、それぞれの分野で戦後日本の高度経済成長を支

えてこられた実績がぎっしりと記されており、私は深い尊敬の念を抱きながら、各案件との適合性を慎重に検討していました。そして、自分が同じ年代になったとき、自らの履歴書にも「社会に貢献できる技術や経験」が刻まれているような人生を歩んでいきたい、と強く思いました。自らが自立して強くあれば人助けもできる、そんなことも思いました。

あれから幾年が過ぎた今も私の履歴書は更新中であり、どれほど社会に役立つスキルを身につけてこられたのか不明です。ただ、社会貢献については、新たに思うことがあります。人や社会の役に立つことは磨き上げた専門技術によるものばかりではなく、技術を必要としない貢献も数多くあり、むしろ、日常生活ではそうした“技術のいない貢献”こそが求められていて、それらの積み重ねが、優しく強い社会を形づくっていくのではないかと、そんなふうを感じるようになりました。

もちろん、具体的な技術は素晴らしいものですし、社会の発展や個人の課題解決には欠かせません。しかしながら、それと同じくらい、あるいはそれ以上に「気づく力」や「声をかける勇氣」、「誰かに見られていなくても、ほんの少し行動に移す力」、「自分を律する力」、そして「倫理観」といった、履歴書には書かれないような資質も、社会にとって大切な“技術”なのではないかと思うのです。

この夏、ボランティアセンターや様々な団体が行うボランティア活動に多くの方が参加されると思いますし、ぜひ参加していただきたいと願っています。と同時に、日常のなかで小さな“技術”をもって、ひとりボランティアのように社会と関わっている方が、きっとたくさんいらっしゃるのだらうな、と思っています。

岡田 麻衣(ボランティアセンター 職員)

立教大学ボランティアセンター

池袋キャンパス(5号館1階)・新座キャンパス(7号館2階)

開室時間: 月～金 9:00～17:00

▼ボラセン Web ページ

http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html

▼メールアドレス

volunteer@rikkyo.ac.jp

▼X(@rikkyo_volucen)

http://twitter.com/rikkyo_volucen/

▼Instagram

https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja

▼note

https://note.com/rikkyo_volunteer/

▼YouTube

https://www.youtube.com/channel/UCo5eBf_CcveSsRAccG5rrzw

配信停止を希望の場合は以下の Google Form を送信してください

<https://forms.gle/PRuubMtYvuHVfKoG8>

(C)2019 RVC all rights reserved.
